

音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・総合芸術選択生へ②

音楽科 古川

音程②

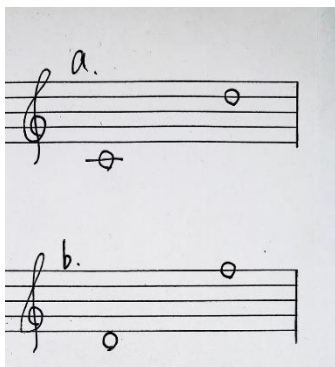
2回目は、単音程、複音程についてです。前回の音程の説明では幅を1オクターブ以内で考えていました。しかし、問題は音部記号が変化し音程の幅が1オクターブを超えることがよくあります。その場合は今回の**複音程**が使われます。

1. 単音程

単純音程ともいい、1オクターブを超えない音程、すなわち完全8度までの音程のことです。

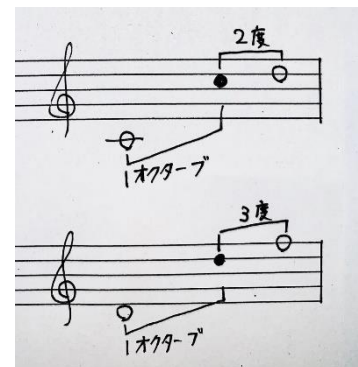
2. 複音程

複合音程ともいい、完全8度を超える音程をいいます。度数は、「9度」、「10度」と呼んでもよいし、「1オクターブと2度」、「1オクターブと3度」と呼んでもよい。ただし、9度、10度…の呼び方は、通常、12度くらいまでしか用いられない。それ以上になると単音程に直して呼ぶことが多いです。



「9度」または
「1オクターブと2度」

「10度」または
「1オクターブと3度」



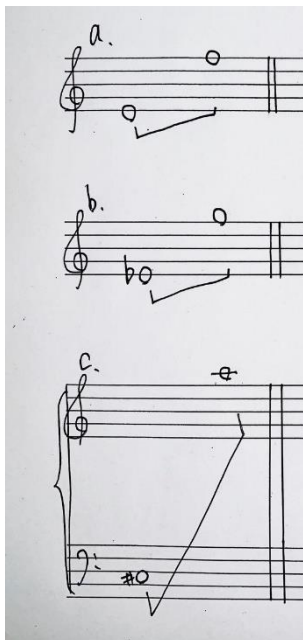
3. 複音程における完全・長・短等の種類

複音程における完全・長・短等の種類は、それに対応する単音程の種類に等しい。

単音程から複音程にする時に種類が変わっては意味がありません。

例えば、「長10度」は「1オクターブと長3度」であり、「1オクターブと減5度」は「減12度」となります。

つまり、複音程を調べるには、まず単音程を正確に知ればいのです。



「短9度」または「1オクターブと短2度」

「長10度」または「1オクターブと長3度」

「2オクターブと短6度」



4. 転回音程

単音程で、低い音を1オクターブ高くするか、高い音を1オクターブ低くすることで別の音程を生じさせることを音程の**転回**という。この結果、別の音程ができるが、この音程をもとの音程に対して「**転回音程**」という。

※複音程は転回できない！！



音程を転回すると、度数・種類は次のように変化するので覚えること。

a) 度数

1度	→	8度
2度	→	7度
3度	→	6度
4度	→	5度

b) 種類

完全	→	完全(変わらない)
長	→	短
増	→	減
重増	→	重減

例題)長3度の転回音程を答えよ。

上記の表で考えると、度数が3度なので6度になり、長なので短になる。

よって答えは「**短6度**」となる。

長3度 短6度 長3度 短6度

5. 異名同音

Cis(嬰ハ)と Des(変ニ)は音名は違うが平均律では同音です。このような2音の関係を異名同音という。

音程は以上ですのでよく復習して下さい。次回は音階に入ります。